

40. 肝血流について——経直腸法と静注法による比較検討——

塩見 進	箕輪 孝美	黒木 哲夫
門奈 丈之		(大市大・三内)
越智 宏暢	浜田 国雄	池田 穂積
下西 祥裕	小野山靖人	(大分大・放)

演者ら簡便かつ生理的状态で全肝血流量における門脈血流成分比を求める方法を考案し、さらにその結果を経直腸門脈シンチグラフィより求めた門脈循環動態異常度と比較検討した。

(方法) ^{99m}Tc -フチン酸 10 mCi を Bolus injection にて左肘静脈より注入、シンチカメラ・コンピュータにて肝、肺、左腎の time-activity curve を描いた。肝のカーブを肺のカーブで subtraction することにより、肺の影響を除去し、左腎カーブのピーク点を目安にして動脈成分 (A) と門脈成分 (P) の境となる屈曲部を決定した。門脈成分比は $P/P+A \times 100 (\%)$ で算出した。経直腸門脈シンチグラフィは従来通り施行、経直腸門脈シャント率を算出した。

(成績) 1) 門脈成分出現時間は、健常例、慢性肝炎、Varix 非合併肝硬変には有意差を認めなかったが、Varix 合併肝硬変において、有意に延長していた。2) 門脈成分比は肝病変の進展に伴い低下する傾向を認め、Varix 合併肝硬変において有意に低値を示した。3) 両検査を施行しえた 8 例において、少数例ながら相関傾向を認めた。以上より、両検査を同時に施行することにより、さらに詳細に門脈循環動態を把握できるものと考えられた。

41. 微小肝癌 Screening 法としての ECT の有用性——特に Echo との併用について——

工藤 正俊	藤見 勝彦	富田 周介
小森 英司	遠藤 義彦	沖本 芳春
藤堂 彰男	北浦 保智	
		(神戸中央市民・消化器内科)
才木 康彦	森本 義人	伊藤 秀臣
池窪 勝治		(同・核)

5 cm 以下のいわゆる微小肝癌は、AFP が有意に上昇しないためその Screening のためには、肝癌合併 high-risk 群である慢性肝疾患の画像診断による定期的 follow-up が必要とされている。現在その主流は、Echo

であるが、われわれは、昭和 56 年 7 月より慢性肝疾患の follow-up に Echo と共に ECT を使用しており、両者を施行した 282 例のうち 10 例の微小肝癌を診断し得た。Echo は 3~4 か月ごと、ECT は 6~8 か月ごとに施行した。使用装置は Echo: Aloka SSD 250 および 256, ECT: GE Maxi Camera 400 T を使用した。10 例中、初回 Screening Echo で 3 例が見落とされたが 3 例とも ECT にて明瞭に描出された。3 例中 1 例は、Echo の盲点に病変が有り、再検査によっても描出不能であった。ECT では、10 例中 1 例が診断不能であったが、原因は、RI の不均一分布によるものであった。ECT と Echo の組み合わせによる Screening にて 10 例全例が診断し得た。

(結論) (1) Echo の診断能は、熟練度に依存し、描出不能の盲点が存在する。(2) ECT は、全体像が得られ技術的見落としが少なく Echo の欠点をよくカバーする。(3) 微小肝癌の Screening 法として、Echo と ECT を併用する事は、お互いに欠点を補い、非常に有用である。

42. ^{99m}Tc -ピリドキシル-メチルトリプトファンによる肝胆道シンチグラフィ

山下 正人	渡邊 充子	村上 晃一
		(京府医・放)
中島 悦郎	奥野 忠雄	(京府医・三内)

新しく開発された、 ^{99m}Tc 標識ピリドキシル-メチルトリプトファン (PMT と略) を用いて、肝胆道シンチグラフィを行った。対象は 30 例で、体質性黄疸 5 例、肝転移を含む肝腫瘍 5 例、薬物性肝障害 3 例、その他である。シンチグラフィ撮影時にコンピュータでデータを採取し、ヘパトグラムを得た。

正常例 (成人男子 6 例) の平均では、総胆管の描出は静注後約 8 分、胆のう像出現は約 10 分、腸管への排泄像は約 15 分で認められた。

右葉外側に関心領域を設定した場合の正常例のヘパトグラムでは、 T_{\max} が約 7 分、 $T_{1/2}$ が約 19 分の値を得た。

^{99m}Tc -PMT の特色として、尿中排泄が ^{99m}Tc -PI や ^{99m}Tc -diethyl-IDA と比較して少なく、肝胆道シンチグラフィを行う上で有利である。特に新生児肝炎と先天性胆道閉鎖症の鑑別に際して、 ^{99m}Tc -PMT の尿中排泄が少ないことは有利である。